

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 オウサム・フィニッシュ	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.488	△RG 0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール

フレアーの幅
[] インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4 1/8 インチ

番

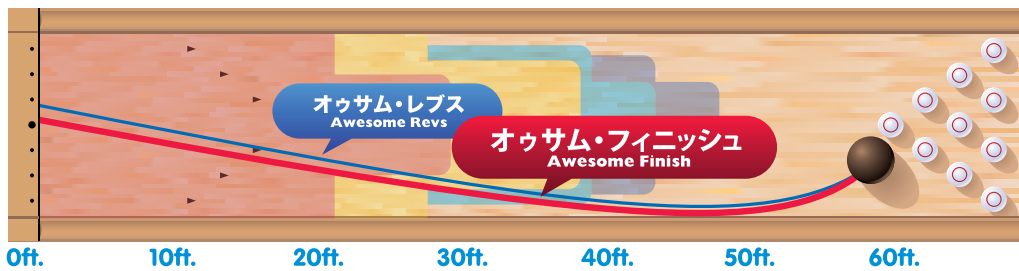
比較対照ボール：オウサム・レブス

フレアーの幅
[] インチ

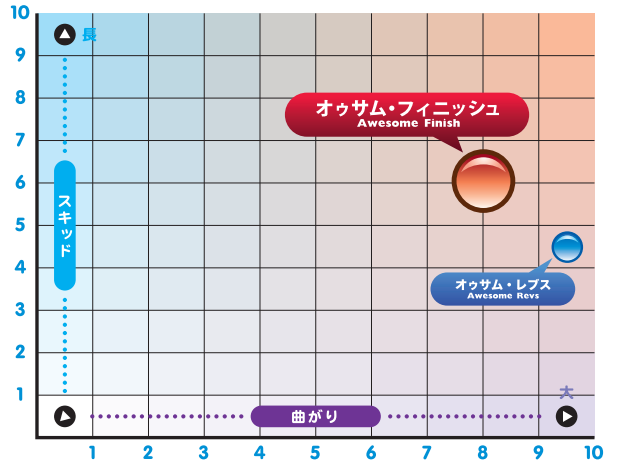
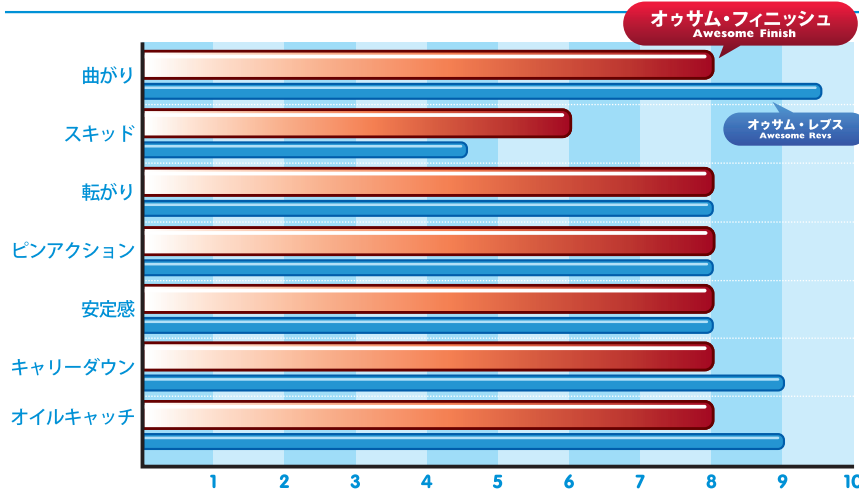
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4 1/8 インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

バンガードコアでのボールは数多くの伝説を残し、このオウサム・フィニッシュで最終章になります。バンガードコア最強のバックエンドリアクションを生み出す、デュアルキャップウエイトブロックは前作のオウサム・レブズでそのポテンシャルを余すことなく発揮しました。しかし、オウサム・レブズは手前のオイルの厚い状態でないとバックエンドまでパワーを温存させるのが難しく、コンディションによりポテンシャルの出方にバラツキがあったことでしょう。

このオウサム・フィニッシュはバックエンドでコアのパワーを最大限に発揮できるよう、キャッチ力の中にもスキッド感が出るリアクティブベースの「SPECTRUM Solid Reactive」を採用し、モーリッチ真髓の曲がり方に拘りを持ちました。投球した感じもバックエンドで曲がりに拘ったボールだけの角の出るリアクションは目を瞠るものがあり、「**皆さんの求めているモーリッチの曲がり方は、こんな感じなのだろう**」と思わせるスペックに仕上がりました。このボールは**モーリッチ社では初めてスピントイムが5.0秒と過去最大の早めの軸移動を特徴**としています。カバーストックがリアクティブベースだからこそ、このスピントイムがミッドエリアでのコントロールの良さを発揮していると同時に、そのスペックながらバックエンドでエネルギーを開放し角の出るリアクションを実現させられることが出来るのはバンガードコアシリーズの集大成のボールたる所似です。ポテンシャルの目安となるドリルレイアウトをホームページ参照にてドリルしてください。

特記事項

バンガードコア集大成のテクノロジー最終章。このスペックは二度と手に入りません。ご購入はお早めに！